

徳島県総合計画審議会未来創造部会 会議録

I 日時 平成23年3月16日(水) 15:30~17:20

II 会場 徳島グランヴィリオホテル エメラルド

III 出席者

【委員】10名中 7名出席

近藤光男委員(部会長), 近藤明子委員, 原田幸委員, 津川なち子委員,
服部和彦委員, 浜口伸一委員, 浜口智子委員

【県】各部局副部長, 政策企画総局長 ほか

IV 会議次第

1 開会

2 議題

(1) 中期プラン(素案)について

(2) その他

《配付資料》

資料1 次期計画・中期プラン編素案(案)

V 議事録

1 開会

2 議題

(1) 中期プラン(素案)について

(2) その他

3 意見交換

(委員)

とても分かりやすく整理されており、理解しやすかったが、2点だけお伺いしたい。

まず11ページの「長期ビジョン編から」に「高齢者も不便を感じず…」という文言があるが、それが中期プランにどのように反映されているのか、少し分かりにくい部分がある。原案にも少しは入っているが、コミュニティバスや新たなサービスなど、中山間地域にはこういった策を講じるということが、少し見えづらいと思う。今後、具体的な計画となった時に記載されるのかもしれないが、ご説明いただきたい。

もう1点は13ページ。「施策の方向性」の一番上の項目で、「また」以降、段落分けされているが、前半部分と後半部分は内容が違っているので、別々の項目として立てても良いのではないかと。

(事務局)

11ページに関し、委員からご指摘を受けたような点、具体的な施策は、行動計画の中に入れていくようにしたい。

13ページについては、ご指摘のとおりと思うので、そのような形に修正させていただく。

(部会長)

近藤委員からのご意見のように、例えば長期ビジョンの中にコミュニティバスなど、かなり具体的話が入っているが、そのあたりは行動計画で出てくると思うので、それは総合計画審議会で検討していきたいと思う。

(委員)

人口問題について、前回、問題提起のような形で発言させていただいたので、それについての感想を述べさせていただきたい。

とりあえず、この人口問題については、定住人口や交流人口など、様々な角度から考えていただいております。納得した。ありがとうございました。

(部会長)

前回、かなり議論をしたが、本当に良い議論だったと思う。

(委員)

書き方の問題だが、今回の震災を踏まえ、より一層県民の目を引くためにも、例えば「今回の震災の教訓を活かし…」など、何かアイキャッチとなるような、県民に実際に身に染みて分かってもらえるような表現ができないかと思う。特に4年間の行動計画については、そういうものを取り入れた方が分かりやすいのではないか。

また、17ページ、スポーツのところだが、確か、徳島県の小学生の体力というのは、かなり低い数値だったように思う。きちんと数値目標を入れ、その目標を目指していくというような表明をしてはどうか。

「スポーツをしましょう」とか、「徳島県にはプロスポーツがあるので、皆さん楽しみましょう」というだけでなく、数値目標をきちんと捉えていくというのも良いのではないかと思う。

(事務局)

震災の教訓を踏まえて、それをはっきり分かるようにすべきではないかとのご意見をいただいた。この中期プランということではないが、一昨日の知事の記者会見でも、記者から防災計画をどのように見直すのかといった質問があった。

その際、知事から、国そのものが津波の高さが20メートルにもなることを想定しておらず、今後、科学的な見直しにかかるであろうことから、それも踏まえて、本県も見直していかなければならないという話があったかと思う。

この件について、今、危機管理部が震災対策で忙殺されており、本日出席していないた

め、委員のご意見を伝え、具体的にどこまで書けるかは分からないが、何らかの形で反映できるようにしたい。

次に、スポーツの数値目標については、行動計画において、ほとんどすべての項目に数値目標を設定するため、そちらで設定するよう整理したい。

(部会長)

計画策定の際には、いつも「数値目標」の議論になるが、今回の場合、中期プランで10年後の姿を文章で記載しており、これもある種の目標と言える。数値目標は、短期の行動計画で設定していくので、これができれば、分かりやすくなると思う。全体を通してそのようなスタイルで仕上げることになるので、よろしくお願ひしたい。

(委員)

18ページの中国グローバル戦略について、「中小・零細企業がどうやって中国にたどり着いて商いができるのか」と、夢だけは描いているが、実際には資本・人材等が全くなく、「みんなで一緒に連れて行って欲しい」といったスタンスで見ている人も多いと思う。

そこで、「じゃあ一緒に行こう」というような行政サイドのリーダーシップを期待したいと個人的には思っている。これから中国は相当有望な市場ということは、十分認識しているが、足踏みしているというのが大方の現状だと思う。

次に、19ページの林業・木材関係について、震災復興の話になるが、今朝の時点で杉の板などが全くない。仮設住宅向けのコンパネなどを商社が一気に抱え込んで、現地に送るため、合板の板がなくなり、杉の板まで、市場で手配がつかなくなっている。

そういった意味で、しばらくは復興による木材の資材インフレが起きたり、需給が逼迫すると思う。しかし、しばらくすると輸入ものがカバーしなければならないようなこともあり、そのことが我々の経済にどのように及んでくるのか、まだまだ不透明である。

東北地方の方は非常にお気の毒な状態だが、我々はこういった資材の供給基地として、できるだけ整備を図りながら、ここ数年の復興事業にこたえていくということが、社会的な意味も含めての責任のような気がする。

中長期的な展望は、まだ望めない状況だが、輸出や消費喚起に対して、今後、県の指導や支援が必要になるのではないと思う。

また、分野外だが、農業において、台湾などで放射能問題で「日本のものは買わない」といった風評被害が起こっている。日本の中でも特に関東・東北の方々にはたいへん気の毒な状況になっている。

短期的には、関西あるいは西日本の農業に、日本人の安全な食の供給基地としての責任が生じてくるのではないと思う。今後どのように農業を展開をしていくか検討する必要があると思う。

(商工労働部)

中国のグローバル戦略に対して、「行政のリーダーシップを」というご意見ですが、商工政策課の中にグローバル戦略担当があり、職員と中国から来た2人の方がアドバイザーとして、相談を受けている。

毎日のように企業の方などが相談に来られ、「現地の状況がどうなっているのか」、「中国の方がこれをご覧になってどうなるか」といった具体的な相談を受けている。

思い返すと、1年ほど前に知事が「医療観光」を強く打ち出したが、その頃は半信半疑の方が多かったのではないかと思う。しかし、おかげさまで、この1年の間に湖南省との友好提携やチャーター便の話など、非常な勢いで進んできた

先日の新聞に「湖南省からの便が満杯状態」という記事が出て、多くの方が驚かれたのではないか。中国という国は、想像しているよりも遙かに大きなポテンシャルを持ち、非常に近い所にあるということかと思う。

これまで「遠い」と思っていた中国を、今、県内の企業の方が、ひしひしと肌で感じているのではないか。先ほども紹介があったが、昨年、中国語講座が色々な形で実施され、たいへん人気があった。

皆様の期待が盛り上がっていることから、それをしっかり受け止め、上海事務所を核としながら、きめ細かく新しい施策を出していきたい。

(農林水産部)

まず、林業の板などの需給が非常に逼迫してくるという話だが、仰るとおり、今回の震災により非常に大きなダメージを受け、これによる需要が今後大きく出てくるということは確実であろうと思う。

合板で言うと、全国で最も大きなメーカーが東北地方あり、そのメーカーが大きなダメージを受けたと聞いている。そのような状況の中、本県の合板、板、柱など、木材の生産量、そして質についてもアップし、需要に corres ponding していきたい。質についてはJAS規格を認証できる企業を育成していきたいと思う。

また、食の安全・安心についてもご意見をいただいたが、本県の農産物については全国でもトップクラスの安全・安心の取組をしてくれていると思う。これをさらに進め、特に「関西の台所」といった面でも十分にアピールし、色々な施策を打ちたいと思う。

農業についても林業についても、23年度から始まる次期戦略の中で、そういったところをしっかりと組み込んでやっていきたいと考えている。

(委員)

私も中国に関して興味があり、質問とお願いがある。想像するだけでも中国のポテンシャルは非常にあると思う。私の立場から言うと、中心市街地の話になるが、中国やその他の国から初めて日本を訪れた方をお出迎えする、1つの窓口として商店街でバックアップさせてもらいたい。

そういった情報が是非欲しいと思い、先日も県の担当に伺ったが、いまひとつどういう形でお出迎えをするのかが見えなかった。1つにはツアーが組まれており、その辺りのことは旅行会社で企画をするということがあるようだが、折角の機会であり、県を挙げ、中心市街地を挙げて、一体となったおもてなしに向け、話し合いができればと思う。

また、今回の中国だけではなく、アジアや他の地域に対しても、今後、検討されるのであれば、是非教えてほしい。先日、中野に視察に行ったが、中野は色々な国の方の受入口になっており、1つの文化を形成している。例えば商店街のパンフレットも6ヶ国語を用

意している。

外国の方が多く来ると、様々な問題も出てくると思うが、その辺はバランスを取りながら、「にぎわいづくり」にチャレンジするのも良いのではないかと思う。中国だけに限らず、今回を1つの検証材料として、是非色々新しく進めてもらいたい。

(商工労働部)

中国の方の受入れの話だが、やはり具体的な姿が見えてこないと分かりにくいということかと思う。

報道もされたように、先週、上海で徳島県独自の観光プロモーションを実施した。そこで、商店街で開催しているイベント、「マチ☆アソビ」についてもPRした。

ご意見にあった「アジア以外の方」ということにも関係すると思うが、「マチ☆アソビ」は、非常に国際的なポテンシャルを持ったイベントだと思うので、こうしたものをきっかけに是非商店街の皆様にもご協力をいただき、盛り上げていきたい、受入れ態勢を作っていきたいと考えている。

また、日本の街は非常に安全で歩きやすいことから、中国の方、特に女性には非常に人気があるとのことであり、この辺りでも商店街に大きな力になってもらいたいと思っている。今後ともご協力をお願いしたい。

(部会長)

中国以外への展開については、まず、中国に力を入れて、その様子を見ながらということかと思うが、最近「東アジア圏」という話もあり、これをきっかけにどんどん広がっていくと良いと思う。

(委員)

今、個人的には、TPPのことが気になっている。これからどのような動きになるか分からないが、安心・安全な農産物や生産者を守る、ぶれない県の政策をきちり示してもらいたいと思う。

今後の動きにより、対応は変わるかもしれないが、基本的な姿勢はしっかりと持っていてほしい。

(部会長)

色々と国の政策が変わってくるので、それに対して、しっかり腰を据えてというご意見かと思う。

(農林水産部)

委員のご意見のとおり、TPPは非常に大きな問題で、今後の行方は非常に不透明な部分があるが、TPPがどう進もうが、本県の農業、安全・安心な食料をしっかりと作り、国民の命を支える食品を提供するという農業、そして産業である農業をしっかりと進めていく。

特にTPPに関わらず国際競争力をつけることは、避けて通れない道だと思われるので、現在策定中の23年度からの新しいブランド戦略にそういった視点をしっかりと組み込みた

いと考えている。

(部会長)

これも行動計画と繋がっているところなので、よろしくお願ひしたい。

(委員)

「とくしまブランド」を食品分野に販路拡大ということについて、農商工連携とか6次産業化など、最近よく言われているが、私の周りの農家でも取り組んでおり、加工品を作っている方が多い。

それを見ていて思うことだが、取組の先例でジャムやドレッシングを作る方があり、それが結構売れているということで、後追いで作る人が出てきて、産直市などに行くとジャムやドレッシングなどの加工品がたくさんありすぎて飽和状態になっているのではないか。

やはり6次産業化を進めるのであれば、農家もマーケティングなど「物売る」ということをしっかり学んでいかないと、農家の自己満足で終わってしまう。その意欲ややったことがもったいないと思うので、県の方でも6次産業化をできる人材の育成に力を入れてもらいたいと思う。

(農林水産部)

ご意見のとおり6次産業化を進めるためのノウハウも、まだ十分というところまで達していない。人材育成については、生産者もそうだが、生産者を指導できる人材、アドバイスできる人材を育成するような事業を新年度からできないかと検討しており、進めていきたいと考えている。

(委員)

21ページが一番下の項目で「産学官が連携した人材育成や県内企業のコンテンツ利用」で、「デジタルコンテンツ産業の集積」となっている。私の理解不足だと思うが、この文章が少し分かりにくいと思う。

今、既存の企業が、自分たちの作っているものをどうやってPRしていくかを考えると、その商品の良いところを一番分かっている人が、発信していくのが、一番良いのではないかと思う。その際、映像の使用やWebの利活用をどのようにしていくかといったノウハウを習得する機会が必要になってくると思う。

この項目に関しては、人材育成と県内企業のコンテンツの利活用、また、デジタルコンテンツ産業の集積という2つの大事なことが含まれており、両方が絡み合っ、分かりにくくなっているのではないか。

(事務局)

書き方の部分で、分かりにくいところがあれば修正したいが、基本的な考え方として、最近で言うとツイッターやフェイスブックなど、そういうものを活用できる人、あるいはそれをインフラとして支えている人、また、これからそういうものに親しもうとするシニ

アの方も含め、情報を提供できるような人材を育成していくということが、一点。

また、デジタルの世界であれば、都会でなくとも、徳島でも仕事ができるというご意見もあった。そこで、そういった人材の育成により、それが個人のレベルではなく、ある程度の社会的・組織的なものとなっていき、集まることにより、デジタルコンテンツ産業の集積に繋がるといったことを、時系列を追って書いている。そのように理解いただきたい。

(委員)

ハード面の整備に関して、29ページに土砂災害等の対策があり、もちろんこれは大事であり、このとおりお願いしたいが、これにプラスして、災害時は迂回路が必要になることから、迂回路の整備についても、文言があれば良いと思う。

(事務局)

中山間地が多い徳島だが、災害時の迂回路の話としては、例えば中期プランの中には、「生命線道路」という表現がある。具体的には行動計画の中に、道路の整備率といった話も出てくると思われるので、担当部局とも相談していきたい。

(委員)

私の会社はマリンピア沖洲と津田の方にも事業所がある。今回の地震をテレビでたまたま見て、すぐ号令をかけ、社員全員をそこから引き揚げさせたが、1時間少々の時間がかかった。やはり危機管理が必要と、今回つくづく思った。

社員も今回の地震をテレビで見て、沖洲や津田は津波が来たら一発で終わりではないかと、相当、不安を抱えながらの業務になっている。この事業所内にすぐ逃げられるような20メートルぐらいの構造物を造ってほしいとの意見が出るくらいに不安を持っている。

そこで、何かメッセージを出すなど、どの程度安全なのか、再度、今の実力を知らしめてほしい。これは中期プランとは関係ないが、こういう場なのでお願いしたいと思う。

日本全体で言えることだが、湾岸エリアの開拓で私の会社も外へ外へと向かったが、こうなると今後は内陸化、重要施設や住宅を内陸に誘導するような都市計画が必要ではないかと思う。

これは、後々学者が出てくると思うが、高い防波堤を作って美観を損ねてもならず、環境破壊にも繋がる。20メートルの屏風のような突堤はできない。しかし、不安で仕方がないという現状があり、その辺りを中長期的に考えていただきたいと思う。

(事務局)

科学の力でどこまでできるか、また、予算の問題もある。また、それは改めて見直していかなければならないと思う。

都市計画を内陸部にシフトするという話についても、これは日本全国の問題だと思うので、十分検討するように関係部局に伝える。

(部会長)

まさに事務局の言うとおりかと思う。

(委員)

今回の震災を自分に当てはめ、BCPなど自分の身の回りがきちんとできているか考えてみた。例えば水が必要になった時、よく「貯水はここでしている」といったような噂は聞くが、私のレベルでは具体的にどこに何があるかということは知らない。色々なところで告知しても、なかなか行き渡らないかと思うが、県民にどこに何があるというのをまず知らしめることが必要かと思う。

難しいかもしれないが、例えば、車ではシートベルトをルールとしているように、防災として、危機や有事の際のために、防災バックなど、必要なものをルールとして必ず持たせることができないか。そういったことを法律や条例までいかなくとも、ルール化することができないかと思う。

罰則までは難しいと思うが、例えば、千代田区では路上を禁煙にし、タバコを吸っていると罰金を取る。このように、何らかのルールを確立していくことにより、何かあった際には、生存率などに数字として出てくる可能性もあるのでないかと思う。前例はないと思うが、こういう機会に考えても良いのではないか。

(事務局)

義務づけでできるかどうかという問題もあるが、災害が起こった時は、自助・共助・公助という順番があると言われている。

まず自分で自分の命を守らなければならない。また、災害の後は生活物資をどうするかということがあり、共助、地域の連帯が必要になる。地域の連帯の中で、壊れた所から脱出するのに必要な機材の整備に対して、地域ごとに支援する制度があったと思う。

委員のご意見は担当部局へ伝えるので、よろしく願いしたい。

(部会長)

本当にこれは想定外の千年に1度くらいの大災害なので、これをどう考えるか、そこから始めないといけないと思う。

私の方から1点、27ページだが、安全・安心の中期プラン編のところに、治安の話と交通安全の話が出ている。治安の方は「高齢者」という文言があるが、交通安全の方にはない。交通安全の観点からすると、事故全体は減っているが、高齢者の事故の割合が増えている。これから高齢者がどんどん増えていき、高齢者の事故、死亡事故も増えると思う。

高齢者に対して「しっかりマナーを勉強してください」、「高齢者はこうしてください」と言うのは難しく、やはり非高齢者が高齢者を思いやる心を持ち、社会全体で高齢者を含めた交通安全を考えていかなければならないと思う。

高齢者を含め交通安全が守れるような社会を作っていくことが大事だという考え方、例えば「シルバーセーフティ」という言葉もあると思うが、そういったものを取り入れてもらえれば良いと思う。

(事務局)

取り入れるようにしたい。

(警察本部)

以前から特に高齢者の交通安全に関しては、各種活動を行っているが、実際の行動計画の中では、ご意見も踏まえて、検討したいと考えている。

(部会長)

中期プラン、行動計画も含めてやっていかなければならないと思うので、よろしく願いしたい。

(委員)

教育世代の親が心配していることは、一流の教育ができる場所だけは作ってほしいということかと思う。特に私は田舎に住んでおり、教育に関する情報も少なく、一流の教育を受けさせようにも距離的に遠い。教育が子どもたちのすべてだと思っている方も非常に多い中で、将来どのように小さい子どもを教育していくのか。人数が少なくなり、学校も1クラスになるなど、スポーツするにも不自由する環境で、本当に教育になるのかと不安に思っている家庭もある。そういう意見も踏まえ、田舎でも一流の教育ができるのか、お聞きしたい。

(教育委員会)

少子化が進む中、地域の中で小さい子どもたち、少ない子どもたちの色々な可能性をどうやって伸ばしていくかということが、教育においてこれからいよいよ重要になるかと思う。小学校の再編など、たくさんの物理的な課題、教員の指導力、加えて保護者の方々の色々な要望、多くの期待があるので、そこはこれからも色々な課題について、1つ1つ点検しながらやっていくことが重要と思っている。

今回は中期プラン、その方向性を示しているが、これに続く行動計画については、先ほど、体力について目標値を持って進めたらどうかとの意見もあったように、全体の目標を共有できるような方向で、教育の具体施策を進めていきたいと思う。大きな方向性としてそのように考えている。

(委員)

「青少年育成とくしまづくり」の中で、若者の意見を政策に活かすということが記述されている。それに関連する「主な施策の方向性」として、下から3つ目の文章があるが、若者の意見を取り入れて、「若者と共に地域づくり・街づくりを行う」、「若者を巻き込んで一緒に」というような表現も良いのではないかと思う。

(委員)

徳島県の農業は、大部分が家族で力を合わせて農業をしている形が多いと思うが、「活力みなぎるとくしまづくり①」で、過疎化・高齢化が進む農村での高齢者の営農活動についての支援が入っている。

そういう内容を、「経済新成長とくしま」の「もうかる農業」のところにも、記載すれば分かりやすいのではないかと思う。この部分の農業は、大きな農業経営体に対して書か

れている内容ではないかと理解しているが、小規模な農業経営体に対しても支援に力を入れているということをごちらでもアピールできないかと思う。

（部会長）

これは関連しているので、上手く書けば良いと思う。人を増やそうという視点からすると、魅力があれば人が寄って来るので、上手く表現するという事かと思う。

（農林水産部）

農業を支えていく、いわゆる担い手について、委員のご意見のとおり、前の方は確かに専門的な大きな農家あるいは法人といったものを意識している。しかし、農業は非常に多様な担い手によって支えられており、そういった小さな農家、中山間の農家にも視点を当てていくような表現、多様な担い手によって成り立っていくというような観点は持っているので、表現を工夫してみたいと思う。

（部会長）

これから施策も含めて、検討をお願いしたいと思う。

（委員）

私は「オンリーワンとくしま行動計画」を噛み砕いて、具体的な市町村の施策の中で、住民にどういった行政サービスがなされるかということをご心配している。

計画完成後は、各市町村としっかりと連携を取りながら、進めるようをお願いしたい。

（事務局）

施策として、もちろん市町村に実施してもらうものは大変多いと思う。県が市町村と一緒に進んでいくような施策、行動計画編ではかなりの部分がそうかと思う。

この計画が完成した際には、市町村に対して、こういったものを策定したので十分理解して共にやっていってほしいといった説明する機会を設けたいと思う。

（委員）

今日卒業式があり、先ほどまで行っていたが、学生たちに明るい話ができなかった。就職率も悪く、日本全体も落ち込んでおり、何もできない自分に歯がゆさもあり、あまり明るいことが言えなかった。

こうやって10年先の姿をずっと見ていると、明るいことがたくさんあると思う。そこで、この計画を、もっと広く色々な人に知ってもらう必要がある。情報発信の方法をしっかりと検討してもらいたい。

（部会長）

これは、また事務局も含め方法を検討してもらいたい。計画を作る時にもシンポジウムを開催したので、PRのためのシンポジウムなど、検討をお願いする。

(委員)

聞き逃したのかと思うが、高齢化社会が進んで山間部では独居老人が増加し、生活面・経済面でもかなり不安を感じていると思う。近所も空き家になったりして相談する相手もない。

そういった独居老人に対しての支援施策については、どこかに表現されているか。

(事務局)

44ページ、「共助・共生とくしまづくり」の「心通い合う温かな地域」で、「地域の住民同士がお互いを大切な存在として助け合いながら地域づくりを行う」ということで、具体的には、「方向性」の2つ目の項目に「ひとり暮らし高齢者等を見守るためのネットワークの充実強化を図ります」といった形で記載している。施策については具体的に担当部局の方から説明する。

(保健福祉部)

昨年、「無縁社会」という言葉が流行語になるような、状況もあったが、今後、高齢者を取り巻く環境が益々厳しくなる中で、「人と人の絆づくり」、「地域のネットワークづくり」のようなものが、問われる世の中になってくると思う。

行政機関でも各地域に相談窓口は当然あるが、やはり地域住民の方々同士が助け合うということもやっていかなければならない。具体的に高齢者を取り巻く色々な行政機関、関係団体、また周りの人々がいかにその地域に合ったネットワークづくりを進めるかが重要となる。

地域によって、具体的な方法論は違ってくるかと思うので、今後、具体的なネットワークづくりについて、進めていこうと考えている。来年度、重点的に高齢者施策の中でやっていきたい。

(委員)

56ページですが、この冊子の中で一番具体例が入っていて分かりやすいと思う。

特に中心市街地に関する内容かと思うので、ありがたいが、一方で中心市街地に特化されており、市街地の住民として大丈夫なのかと感じている。

また、この内容を見るとアニメイベントの「マチ☆アソビ」が具体例として入っており、徳島県として、アニメを県の財産と考え「アニメで行く」というような心構えになっているのか、それとも今は非常に注目を浴びているので、とりあえず入れておこうと考えているのか。「アニメと一緒に心中する」というぐらいの覚悟で考えているのか、お聞きしたい。

(事務局)

先ほど産業の方で「デジタルコンテンツの充実」があり、アニメとかWebまで色々書いている。コンテンツというのはそもそも文字と映像と音で、3種類しかないと言われているが、その中で知事が一番力を入れているのがアニメである。もちろん他のものでもできれば良いが、またそれは我々が努力してやっていくことになる。

「ufotable」に来ていただき、イベントは過去にないような盛況を呈しているので、それはしっかり育てていく。また新たな取組にもチャレンジしたいというような夢も持っているので、それに注力してやっていきたいと考えている。

(部会長)

7番目の「宝の島」の項目は、他の項目が体系的に書かれている中で、ここは、これから非常に重要な項目や光らせて徳島をアピールしようというものが詰まった内容である。特に、この中から良いものができたら良いという、そういった視点で捉えたら良いと思うし、私はそう理解している。

それでは、窮屈な時間配分で皆さんにご迷惑をかけたが、ここで意見交換を終わりたい。今日は、計画そのものに関わる意見を、表現も含めていただいた。また、この計画の10年先の姿を実現するための関連施策についても、たくさんの意見をいただいた。

私はいつも言っているが、計画づくりは作って終わりではない。作ったら、それをいかに実現するかが大事であり、それには多くの労力が必要となる。そういう視点からすると、私はずっと事務局や委員の皆さんとこの計画を作ってきたが、非常によくできた計画かと感じている。

大きな課題は、今、言ったように、これをいかに県民の皆さんや市町村と一緒に実現するかということかと思う。

この計画の最終形は、行動計画ということで、タイムスケジュールを作っていくので、まさにこれが計画を具現化する取組となる。

これについては、この部会の上の総合計画審議会に提案し、議論が進むことになるが、先ほど説明があったように、今年の7月ぐらいに最終形ができあがる予定。

この部会の仕事としては、ここが最終形だが、表現も含めて分かりやすい計画になったと思う。

また、今は少し暗い時代であるが、この計画は、夢があって、「良くしよう」という意欲も感じられる計画なので、これからは「これを実現するために頑張りましょう」ということで、声を上げていきたいと思っている。

今日、皆さんにたくさん意見をいただき、少し宿題も残っているが、この部会は今日が最後で、後は事務局で手直しをし、私と相談の上で最終形を作りたいと思う。その最終形が総合計画く審議会に上がっていくが、修正等については、私に一任ということで良いか。

(異議無し)

それでは私の方で修正等、見直し確認をしたいと思う。

今日が4回目の未来創造部会であったが、この部会の目標が達成できたと思う。

今日言い忘れた意見があれば、政策企画総局まで郵便・FAX・メール、何でも結構なので送っていただきたい。

4 事務局連絡事項

- ・ 本日の会議録の公表については、部会長と協議の上、公開する。

5 閉会